



園だより

「遊びから行事・行事から遊びへ」



令和 7 年 11 月 号

杉並区立堀ノ内子供園

園 長 大塚 玲華

園長 大塚 玲華

10月18日に行われた運動会は天気恵まれ、子どもたちが伸び伸びと、そして様々な体を動かすことができた一日となりました。保護者の皆様、たくさんの声援や片付けの手伝い、メダル作りのボランティア、またアンケートのご協力をいただき本当にありがとうございました。

運動会のアンケートでは各学年の「運動会のねらいに基づいた子どもの姿が見られたか」という設問について、「とてもそう思う」91.7% 「そう思う」6.9% 「あまりそう思わない」1.3% というご回答をいただきました。多くの方に園での運動会の取り組みや、取り組む過程で大切にしていることをご理解いただき、当日そのような子どもたちの姿を感じ取っていただけたこと、嬉しく思います。

一部になりますが以下のご意見、ご感想をいただきました。

- ・無理に強制するのではなく、それぞれのペースでやりたいことをできるようにしてくれていた。
- ・のびのびと自由に体を動かし、運動会を楽しんでいた。
- ・色々な体の動きを楽しみながら習得できてよかった。
- ・直接的に運動会の練習というわけではなく、色々な遊びを通して運動会の種目の練習につながっていることがとてもよい。
- ・楽しいイベントの後ろに「楽しむこと」「あきらめないこと」など学年によってしっかりと目標設定をしていると観ていて感じた。
- ・キッズビューで日々の写真やコメントの配信があったことで、運動会に向かっていく様子がよりわかりやすく楽しかった。
- ・先生の視点から見た出来事や子どもたちの成長を感じられるエピソードなどを文章で詳しく伝えてくれると良い。
- ・全学年通して観られたことで、1年後、2年後の我が子の成長が楽しみになった。
- ・心と体の成長を感じられた。

運動会当日まで、子どもたちは保育者が意図的に用意した環境（海賊からの地図・海のイメージが伴った製作素材・巧技台の設置・かけっこ、リレーなどのラインなど）をきっかけに、魚釣り、海賊ごっこ、海に関する踊り、海の生き物作り、かけっこ、リレーなどを遊びの中で繰り返し楽しむことができました。こうして遊びの中で子ども自身が周りの環境に「面白そう」と興味をもち、自分のタイミングで「やりたい」と自己決定をして、「楽しい」と自分から繰り返し取り組んできたことが、18日の姿につながりました。大人にとっては18日当日が「運動会」でしたが、毎日遊びの中で楽しんできた子どもたちにとっては毎日が「運動会」。だから18日が終わった後も園ではしばらく「運動会」の遊びが見られ、うさぎ組やばんだ組がきりん組のまねをしてサメや海賊グッズを作って身に付けて体を動かしたり、うさぎ組がばんだ組のジンベエザメの玉入れをしたり、ばんだ組がきりん組のリレーに入れてもらって走ったりしていました。

このように子供園の行事は、それだけが独立しているのではなく、日々の遊びの延長線上にあるものです。そして、行事で経験したことがまた、遊びへと返っていきます。様々な場面で子どもたちは「学び」を積み重ね、深め、心も体も頭も成長していきます。

12月には4・5歳児の「堀ノ内劇場」があります。運動会同様、繰り返し子どもが遊びを通して積み重ねてきた経験や育ちが堀ノ内劇場につながるよう、教育・保育を行なっていきます。

いただいたご意見・ご感想はこれからの教育・保育や次年度の運動会の取り組み、運営のあり方に活かしていきます。早速、堀ノ内劇場に向けても、日々の取り組みで大切にしていることは継続し、より取り組みの意図や育ちがわかりやすい発信の工夫をして参ります。これからも、どうぞ園の教育・保育にご理解とご協力をお願いします。（各学年のより詳しい運動会アンケートの結果や、いただいたご意見・ご感想については、後日学年だよりでお知らせいたします。ぜひ併せてお読みください。）

・ 今月の指導 ・

うさぎ組

初めての大きな行事である運動会を終えたうさぎ組。運動会の取り組みが楽しかった気持ちや異年齢への憧れから、運動会後も海のイメージの中でなりきって動くことや、走ったりアスレチックに関わったりしてのびのびと体を動かすことを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。
- 自分の思いを出しながら、同じ場にいる幼児や保育者と関わって遊ぶことを楽しむ。
- 冬に向けて新しく必要になった身の回りのことを自分でやろうとする。

これまでの遊びからやりたいことを見付けたり、園生活に安心したりしてきて、「これをして遊びたい!」という思いがより一層出てくるようになってきました。保育者が一人ひとりの思いに寄り添い、幼児が満足感を感じて「やっぱり子供園って楽しい!」と思えるように援助していきます。

遊びの場や興味を通して、幼児同士の触れ合いも出てくるようになってきました。クラスの幼児の存在を嬉しく感じる姿がある一方で、言葉で思いを伝え合うことにはまだまだ難しさがある時期です。それぞれの幼児の思いを読み取り、丁寧に受け止めながら、周りの幼児と関わる楽しさが感じられるように援助していきます。

気温も下がってきますが、元気に登園できるよう、家庭でも体調管理をよろしくお願いします。

ぱんだ組

運動会を経験し、外で体を動かして遊ぶことがもっと楽しくなってきたぱんだ組。「今日もジンベエザメにご飯をあげよう!」「〇〇くん、一緒にかけっこしようよ!」など、友達を誘い合いながら、自分から体を動かして遊ぶ姿が見られます。運動会後は、年長児が行っていた憧れのサメや海賊になりきって遊んだり、リレーを教えてもらって繰り返し走ったりすることを楽しんでいます。

今月は次のことを重点に指導します。

- 遊びに必要なものを作ったり、使ったりすることを楽しむ。
- 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で伸び伸びと自分の思いを言葉や動きに出して遊ぶことを楽しむ。

友達と一緒に遊ぶ中で、「私はこうしたい」と自分の思いをもったり、「こうするのはどう?」と自分の思いを部分的に相手に伝えたりする姿が増えてきました。思いが伝わらなかったり、友達とイメージが違ったりすることもあります。保育者は、幼児一人ひとりの思いを受け止めたり、自分の思いを出そうとする姿を見守ったり、必要な言葉を知らせたりしながら、友達との関わり方をらせていきます。

10 月末には、遠足で水族館に行きます。海の生き物への興味・関心を深めたり、「遠足」という共通の体験が遊びに繋がっていったりするように支えていきます。

きりん組

運動会を経験し、学級の友達とのつながりが一段と深まっています。友達と一緒に遊ぶ中で、思いを話したり聞いたりする姿や「～だったよね。分かるよ。」と友達の気持ちを自分なりに想像し、寄り添おうとする姿も見られるようになってきました。

今月は次のことを重点に指導します。

- 友達と考えを出し合ったりイメージを共有したりして、共通の目的に向かって遊びを進めていこうとする。
- 園生活に見通しをもち、自分たちで進めていこうとする。

10 月末に遠足に行き、みんなで経験したことをもとに、イメージやめあてを共有しながら遊ぶことを楽しめるようにしていきます。友達同士で話し合っ進めようとする姿を見守りつつ、困ったときには保育者も一人の仲間として関わっていきます。また、一人ひとりが自分の良さや友達の良さに気付ける機会をもち、友達や学級のみんなと共通の目的をもって遊ぶ中で、互いの良さを認め合い、自分の力を発揮できるように支えていきます。